

平成26年度 学校評価結果報告

徳島県立川島中学校・高等学校

◆はじめに ◆
本校では、平成26年度当初に作成しました「学校評価計画」に基づき、教育活動を進めてまいりましたが、このたび、その評価結果をまとめましたので、ご報告いたします。

評価にあたりましては、「学校評価アンケート」などを通じ、多くの貴重なご意見ご感想をお寄せいただき、誠にありがとうございました。アンケート結果は、全教職員で検討し、学校関係者評価委員会を経て、次年度に向けての教育活動の課題などを明らかにしました。今後とも、こうした学校評価結果を踏まえ、教育活動の充実・発展に努めますので、引き続きご理解とご協力くださいますようお願いいたします。



平成26年度

学校評価

総括評価表

徳島県立川島中学

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指標による達成度		総合評価		
(1)中高一貫教育を活かした系統的な指導体制の確立	①学校運営面での中高連携の促進に努め、異年齢集団における社会性の育成を進める。 ②6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。	①中高合同の教育課程検討会や教科会を定期的に開催する。 ②儀式的行事や体育祭・文化祭だけでなく、必要に応じて行事等を中高合同で実施する。 ③生徒や保護者の中高一貫教育に対する期待に応えるため、6年間を見通した特色ある教育を展開する。	①中高一貫教育推進委員会を年6回、また中高合同の教科会は2回実施した。 ②例年通り、入学式などの儀式的行事や体育祭・文化祭を行い、アンケート結果より生徒の87%(前年度89%)、保護者の90%(前年度88%)が、高校生との理解を深めるのに有効と回答している。 ③アンケート結果より生徒の86%(前年度98%)、保護者の96%(前年度95%)が、6年間を見通した特色ある教育を行っているとは回答している。	(評定) B ----- (所見) 生徒・保護者のアンケート結果では、全体の9割近くが、本校の中高一貫教育について肯定的である。特に生徒・保護者とも2年連続で高い割合を保っているが、児童数の減少に伴い志願者数も減少傾向にある現状がある。本年度は本校が設立10周年の節目でもあり、今後に向け、より具体的に本校の目指す学校像を明確にし、生徒・保護者に伝えていくことが必要である。 前年度に引き続き3期生がこれまで以上の進学実績を上げたことにより、数学の先取り学習などの特色ある取り組みが功を奏していることが、一定以上の評価を得られているものと考えられる。	○6年間のシラバス作り、中高合同行事や総体壮行式など、中高連携の促進に努めてほしい。特に数学の先取り学習はずっと継続してほしい。達成度保護者の96パーセントはすばらしい。	○前年度同様、数学の先取り学習に関する課題はあったが、中高一貫教育推進委員会等において検討し、引き続き継続して先取り学習を実践した結果、先取りによる効果が得られたと考える。 ただ、クラス減による4年次の新しいクラス編成のありかたなど、今後の検討課題もあり、引き続き改善に向けた取り組みが必要である。 また、高校への進学に関しては、より一層中高一貫教育の理解を得るように努める。 開校10周年を迎えるにあたり、本校の目指す学校像をこれまで以上に明確にし、生徒・保護者に伝えていくことが必要である。	
							活動計画 ①併設高校と連携し、6年間のシラバスづくりをする。 ②中学生・高校生がともに参加する共通の学校行事を設定する。

平成26年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(2)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題						
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。 ② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="661 253 834 311">評価指標</th> <td data-bbox="834 253 1136 898"> ① 授業に意欲的に取り組む生徒の割合を80%以上にする。 ② 「質問タイム」や「補充学習」が学力向上に有効であるとする生徒・保護者80%以上をめざす。 ③ 毎日の家庭学習時間が1時間30分以上をめざす。 ④ 1年間で1種類以上の検定に挑戦し、合格する生徒の割合80%以上をめざす。 ⑤ 定期テストで5科目の平均が70点以上に達する生徒の割合が50%以上とする。 ⑥ 中高連携の参観授業や研究会を年間3回以上実施し、授業力向上を図る。 </td> </tr> </table>	評価指標	① 授業に意欲的に取り組む生徒の割合を80%以上にする。 ② 「質問タイム」や「補充学習」が学力向上に有効であるとする生徒・保護者80%以上をめざす。 ③ 毎日の家庭学習時間が1時間30分以上をめざす。 ④ 1年間で1種類以上の検定に挑戦し、合格する生徒の割合80%以上をめざす。 ⑤ 定期テストで5科目の平均が70点以上に達する生徒の割合が50%以上とする。 ⑥ 中高連携の参観授業や研究会を年間3回以上実施し、授業力向上を図る。	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1136 253 1437 311">評価指標による達成度</th> <td data-bbox="1437 253 1731 898"> アンケート結果 ① 80%の生徒が意欲的に授業に取り組んでいると答え、52%の保護者が家庭学習に主体的だと回答している。 ② 86%の生徒、84%の保護者が「質問タイム」や「補充学習」が学力向上に有効であると回答している。 ③ 学習時間調査(1月実施)で、全校生徒59%が30分～1時間、37%の生徒は2時間以上の学習をしている。 ④ 各種検定の達成率 漢字検定に70%の生徒、英語検定には54%の生徒が挑戦している。また、1年間に1種類以上の検定に挑戦した生徒の割合は85%であった。 ⑤ 1年生の達成率46%、2年生の達成率42%、3年生の達成率35%であった。 ⑥ 授業公開を積極的に実施し、教科間での中高連携も実施できた。 </td> </tr> </table>	評価指標による達成度	アンケート結果 ① 80%の生徒が意欲的に授業に取り組んでいると答え、52%の保護者が家庭学習に主体的だと回答している。 ② 86%の生徒、84%の保護者が「質問タイム」や「補充学習」が学力向上に有効であると回答している。 ③ 学習時間調査(1月実施)で、全校生徒59%が30分～1時間、37%の生徒は2時間以上の学習をしている。 ④ 各種検定の達成率 漢字検定に70%の生徒、英語検定には54%の生徒が挑戦している。また、1年間に1種類以上の検定に挑戦した生徒の割合は85%であった。 ⑤ 1年生の達成率46%、2年生の達成率42%、3年生の達成率35%であった。 ⑥ 授業公開を積極的に実施し、教科間での中高連携も実施できた。	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1731 253 2005 311">総合評価</th> <td data-bbox="2005 253 2321 898"> 〈評定〉 B (所見) 教師の93%が常に授業に熱意を持ち工夫した授業を展開していると回答しているが、家庭学習時間の減少や主体的な家庭学習の不足は、改善が必要である。 検定への挑戦は、学年が上がるごとに受検者が減少している。英検・数検においては、学習進度から3学期での実施に重点を置いていること原因と考える。 真面目な生徒が多く「至誠ノート」の提出率は高いが、主体的な家庭学習のために役立っているかは十分でないと考える。 「朝の学習」時間を利用し、1年生では読書活動の実施、2・3年生では、漢字検定や英語検定への練習などに活用した。1年生では、語彙力が増えたと答えたり、2・3年生では、検定への自信が着いたと答えた。 体験的な活動は、本校の柱であることから、今後も積極的に進めていきたい。 </td> </tr> </table>	総合評価	〈評定〉 B (所見) 教師の93%が常に授業に熱意を持ち工夫した授業を展開していると回答しているが、家庭学習時間の減少や主体的な家庭学習の不足は、改善が必要である。 検定への挑戦は、学年が上がるごとに受検者が減少している。英検・数検においては、学習進度から3学期での実施に重点を置いていること原因と考える。 真面目な生徒が多く「至誠ノート」の提出率は高いが、主体的な家庭学習のために役立っているかは十分でないと考える。 「朝の学習」時間を利用し、1年生では読書活動の実施、2・3年生では、漢字検定や英語検定への練習などに活用した。1年生では、語彙力が増えたと答えたり、2・3年生では、検定への自信が着いたと答えた。 体験的な活動は、本校の柱であることから、今後も積極的に進めていきたい。	○家庭学習の時間が短いのが気になります。宿題の提示など、家庭における学習時間の確保に関する対応を検討される必要がある。 ○この重点課題は、教職員にとって最も力を入れたいところだと思えます。短絡的ではありませんが、テスト回数を増やすような方法でもとらないと家庭学習は増やせないと思えます。 ○各検定合格など目標を持って学習してほしい。わかりやすい授業、質問タイム、補充学習は工夫され、学力向上に役立つ。至誠ノートの充実などを生かし、学びの意欲向上を望む。	○授業には、落ち着いて取り組んでいるが、自主的な家庭学習の時間不足や、定期テストに向けて、計画的学習ができていないと答えた生徒(65%)というのも、高い目標に向かって学習を進めていないのではないかと考える。特に、3年生での中だるみの時期の改善を図りたい。 ○携帯電話の使用アンケートで、時間の制約を設けていない生徒が56%もいる。家庭学習の定着との関係が大きい。保護者と連携しながら工夫改善に努めたい。また、図書館の利用率も低いので読書指導も進めていきたい。
		評価指標	① 授業に意欲的に取り組む生徒の割合を80%以上にする。 ② 「質問タイム」や「補充学習」が学力向上に有効であるとする生徒・保護者80%以上をめざす。 ③ 毎日の家庭学習時間が1時間30分以上をめざす。 ④ 1年間で1種類以上の検定に挑戦し、合格する生徒の割合80%以上をめざす。 ⑤ 定期テストで5科目の平均が70点以上に達する生徒の割合が50%以上とする。 ⑥ 中高連携の参観授業や研究会を年間3回以上実施し、授業力向上を図る。									
	評価指標による達成度	アンケート結果 ① 80%の生徒が意欲的に授業に取り組んでいると答え、52%の保護者が家庭学習に主体的だと回答している。 ② 86%の生徒、84%の保護者が「質問タイム」や「補充学習」が学力向上に有効であると回答している。 ③ 学習時間調査(1月実施)で、全校生徒59%が30分～1時間、37%の生徒は2時間以上の学習をしている。 ④ 各種検定の達成率 漢字検定に70%の生徒、英語検定には54%の生徒が挑戦している。また、1年間に1種類以上の検定に挑戦した生徒の割合は85%であった。 ⑤ 1年生の達成率46%、2年生の達成率42%、3年生の達成率35%であった。 ⑥ 授業公開を積極的に実施し、教科間での中高連携も実施できた。										
	総合評価	〈評定〉 B (所見) 教師の93%が常に授業に熱意を持ち工夫した授業を展開していると回答しているが、家庭学習時間の減少や主体的な家庭学習の不足は、改善が必要である。 検定への挑戦は、学年が上がるごとに受検者が減少している。英検・数検においては、学習進度から3学期での実施に重点を置いていること原因と考える。 真面目な生徒が多く「至誠ノート」の提出率は高いが、主体的な家庭学習のために役立っているかは十分でないと考える。 「朝の学習」時間を利用し、1年生では読書活動の実施、2・3年生では、漢字検定や英語検定への練習などに活用した。1年生では、語彙力が増えたと答えたり、2・3年生では、検定への自信が着いたと答えた。 体験的な活動は、本校の柱であることから、今後も積極的に進めていきたい。										
<table border="1"> <tr> <th data-bbox="661 898 834 956">活動計画</th> <td data-bbox="834 898 1136 1825"> ① 指導方法の工夫、改善のための研究授業及び研修会を定期的実施する。 ② テスト前の「質問タイム」やテスト終了後の「補充学習」を確実に実施し、個々の生徒の力を伸ばす。 ③ 主体的な学びの力を育成するために家庭学習の習慣と自主学習ノートの「至誠ノート」を工夫・充実の指導を図る。 ④ 漢検・数検・英検などの資格取得をめざすことで、基礎学力の充実、達成感や学びの意欲向上をもたせる。 ⑤ 海外語学研修の実施や国際性を高める活動や、体験的な活動を外部と連携して計画実施することで、言語能力の育成と個々の進路に役立てる。 </td> </tr> </table>	活動計画	① 指導方法の工夫、改善のための研究授業及び研修会を定期的実施する。 ② テスト前の「質問タイム」やテスト終了後の「補充学習」を確実に実施し、個々の生徒の力を伸ばす。 ③ 主体的な学びの力を育成するために家庭学習の習慣と自主学習ノートの「至誠ノート」を工夫・充実の指導を図る。 ④ 漢検・数検・英検などの資格取得をめざすことで、基礎学力の充実、達成感や学びの意欲向上をもたせる。 ⑤ 海外語学研修の実施や国際性を高める活動や、体験的な活動を外部と連携して計画実施することで、言語能力の育成と個々の進路に役立てる。	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1136 898 1437 956">活動計画の実施状況</th> <td data-bbox="1437 898 1731 1825"> アンケート結果 ① 87%の生徒が、「わかりやすく授業が工夫されている」と回答している。研修の実施や、授業の工夫が「学びの力」につながっている。 ② 「質問タイム」・「補充学習」の形を工夫改善したことで、生徒の学びが積極的になった。 ③ 94%の生徒が「至誠ノート」を提出しており、家庭学習の習慣は身に着いている。 ④ 漢字検定合格者 5級 45名 4級 17名 3級 8名 準2級 1名 計71名 ※第3回結果待ち(38名) 英語検定合格者 5級 2名 4級 0名 3級 11名 準2級 3名 計16名 ※第3回結果待ち(68名) 数学検定受検者 5級 13名 4級 4名 3級 6名 計23名 ※第3回結果待ち(計23名) ⑤ オーストラリアへの語学研修に16名の生徒が参加、韓国には31名の生徒が訪韓研修に参加し、学んだことを報告した。また、グローバル語り部を活用し、生徒は異文化体験をした。 </td> </tr> </table>	活動計画の実施状況	アンケート結果 ① 87%の生徒が、「わかりやすく授業が工夫されている」と回答している。研修の実施や、授業の工夫が「学びの力」につながっている。 ② 「質問タイム」・「補充学習」の形を工夫改善したことで、生徒の学びが積極的になった。 ③ 94%の生徒が「至誠ノート」を提出しており、家庭学習の習慣は身に着いている。 ④ 漢字検定合格者 5級 45名 4級 17名 3級 8名 準2級 1名 計71名 ※第3回結果待ち(38名) 英語検定合格者 5級 2名 4級 0名 3級 11名 準2級 3名 計16名 ※第3回結果待ち(68名) 数学検定受検者 5級 13名 4級 4名 3級 6名 計23名 ※第3回結果待ち(計23名) ⑤ オーストラリアへの語学研修に16名の生徒が参加、韓国には31名の生徒が訪韓研修に参加し、学んだことを報告した。また、グローバル語り部を活用し、生徒は異文化体験をした。							
活動計画	① 指導方法の工夫、改善のための研究授業及び研修会を定期的実施する。 ② テスト前の「質問タイム」やテスト終了後の「補充学習」を確実に実施し、個々の生徒の力を伸ばす。 ③ 主体的な学びの力を育成するために家庭学習の習慣と自主学習ノートの「至誠ノート」を工夫・充実の指導を図る。 ④ 漢検・数検・英検などの資格取得をめざすことで、基礎学力の充実、達成感や学びの意欲向上をもたせる。 ⑤ 海外語学研修の実施や国際性を高める活動や、体験的な活動を外部と連携して計画実施することで、言語能力の育成と個々の進路に役立てる。											
活動計画の実施状況	アンケート結果 ① 87%の生徒が、「わかりやすく授業が工夫されている」と回答している。研修の実施や、授業の工夫が「学びの力」につながっている。 ② 「質問タイム」・「補充学習」の形を工夫改善したことで、生徒の学びが積極的になった。 ③ 94%の生徒が「至誠ノート」を提出しており、家庭学習の習慣は身に着いている。 ④ 漢字検定合格者 5級 45名 4級 17名 3級 8名 準2級 1名 計71名 ※第3回結果待ち(38名) 英語検定合格者 5級 2名 4級 0名 3級 11名 準2級 3名 計16名 ※第3回結果待ち(68名) 数学検定受検者 5級 13名 4級 4名 3級 6名 計23名 ※第3回結果待ち(計23名) ⑤ オーストラリアへの語学研修に16名の生徒が参加、韓国には31名の生徒が訪韓研修に参加し、学んだことを報告した。また、グローバル語り部を活用し、生徒は異文化体験をした。											

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
<p>(3) 生徒の能力・適性に 応じた進路の実現</p>	<p>① 進路指導プログラムの改善・充実を図り、進路達成意欲を高める。</p> <p>② 三者面談・年次PTAなどにより保護者との連携強化に努める。</p>	<p>① 「質問タイム、補充学習（全学年）、スペシャルアプローチ（3学年対象）は役に立っている」と思う生徒の割合、75%以上をめざす。</p> <p>② 6年間を見通したキャリア教育を実施するとともに、それぞれの発達段階に応じたさまざまな体験活動を実施する。</p> <p>③ 「進学説明会」、卒業生を迎えての授業「ようこそ先輩」の実施を通して、高校教育への理解を深め、今後の進路指導につなげる。</p>	<p>アンケート結果</p> <p>① 生徒の72%、保護者の81%が質問タイム・補充学習、スペシャルアプローチが有効であると回答した。</p> <p>② 生徒の81%、保護者の93%がキャリア教育や様々な体験活動が進路の選択に役立っていると回答した。</p> <p>③ 生徒87%、保護者90%が高校からの進路説明会や、併設高校に在籍する高校生と語り合う機会「ようこそ先輩」が進路の選択に役立っていると回答した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>ほとんどの項目で昨年度と数値はほぼ同等であり、本校の進路指導におおむね理解をいただいていると思われる。特に様々な体験活動においては生徒・保護者ともに高い数値が見られる。質問タイム・補充学習については、生徒の数値が昨年度よりも下がっているものの、目標に近いものであった。また、高校説明会は、生徒・保護者ともに好評であった。高校体験入学・先輩の話も定着してきており、中学生にとって高校生活や進路について考えるよい機会となっている。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>○「ようこそ先輩」は、意義のある大切な取り組みと考える。継続して取り組まれることを望む。</p> <p>○目標を達成できていると思います。</p> <p>○「ようこそ先輩」の実施は、生の声を先輩から聞け、具体的なもので、非常に参考になる。キャリア教育や体験活動を通じ、今後とも高校へのスムーズな移行を図れるよう連携を密にしてほしい。</p>	<p>次年度への課題</p> <p>○進路指導体制の確立をはかり、1学年から計画的に進路指導を行うとともに、高校との効果的な連携をはかる。</p> <p>○フューチャー・体験活動については、これまで同様、6年間を見通しながら、生徒の実態に沿った内容で柔軟にプログラムを組むことが重要である。</p> <p>○併設高校に在籍する高校生と語り合う機会は、高校からの説明をより具体的に示すものとして好評であり、今後も継続して実施したい。</p>	
							活動計画
		<p>① 質問タイム、補充学習（全学年）、スペシャルアプローチ（3学年対象）を実施する。</p> <p>② 6年後の目標を持たせる「キャリア教育」を実施する。</p> <p>③ 3年生を対象とした川島高校による進学説明会・卒業生を迎えての授業「ようこそ先輩」を実施するとともに、川島高校体験入学への参加を定着させる。</p> <p>④ 生徒の進路指導充実のため、家庭訪問、三者面談、個人面談を充実させる。</p>	<p>① 質問タイム、補充学習（全学年）、スペシャルアプローチ（3学年対象）を実施する。</p> <p>② 6年後の目標を持たせる「キャリア教育」を実施する。</p> <p>③ 3年生を対象とした川島高校による進学説明会・卒業生を迎えての授業「ようこそ先輩」を実施するとともに、川島高校体験入学への参加を定着させる。</p> <p>④ 生徒の進路指導充実のため、家庭訪問、三者面談、個人面談を充実させる。</p>				

平成26年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(4)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
(4) 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的生活習慣を身につけさせる。 ② あらゆる教育活動をととして、きめ細やかな生徒指導を行いいじめ防止等の取り組みに努める。	① 校則や交通ルールの遵守をめざす。特に登下校時の交通事故ゼロに努める。 ② あいさつの励行、90%以上をめざす。 ③ 携帯電話の安全教育について充実を図り、マナー向上や不正使用の問題解決を推進する。 ④ いじめ防止、早期発見に努め、問題の背景や環境要因も考慮し適切な解決に努める。	① アンケート結果 校則、交通ルールに関して生徒95%(昨年96%)保護者95%(昨年96%)が守れていると回答。安全意識は高いが事故は起きている。 ② アンケート結果 生徒78%(昨年92%)、保護者89%(昨年84%)があいさつをよくしていると回答。 ③ 携帯電話に関しては、生徒92%(昨年96%)、保護者84%(昨年82%)が正しく使用していると回答した。使用に関して危機感が感じられない。 ④ アンケートや「至誠ノート」を始め普段の生活状況等を通して担任が注意深く観察し、いじめ早期発見に努める。また、校則違反や問題行動等が見受けられた場合、速やかに保護者に連絡を取り、面談の場を持った。交通事故防止等を集会等で指導するほか、登下校時立哨指導を実施した。	(評定) B ----- (所見) 自転車運転中の交通事故が数件発生した。重大な事故には至っていないが交通ルールやヘルメット着用の指導を徹底したい。 携帯電話やスマートフォンの所持に教員は危機感を持っている。メールやラインを遊びに利用し、様々な問題が発生している。学校の指導だけでなく、保護者の協力が不可欠である。また、1月23日には吉野川警察署中学生サミットに参加しスマホ等を安全に使うために意見発表や情報交換をした。中学生集会や、学年集会を利用して、自己肯定感や生命の大切さについて指導した。また、おもしろ半分勝手に写真や動画を掲載することは許される行為ではなく、人権侵害やいじめ等、重大な事件につながる恐れがあることを指導した。	○ スマートフォンの利用については、今後ますます問題となってくるが、生徒自身が生徒時間を作ると考える。 ○ 目標を達成できていると思います。 ○ 自転車安全教育や、携帯電話の正しい使い方の指導に力を入れ、特にいじめの早期発見に尽力願いたい。保護者との密接な連携ができるよう努力を願う。	○ 全項目について指導の徹底を図るが、特にあいさつの励行については校外での登校、下校時についても呼びかけをして100%の実施につなげたい。 ○ 家庭と密接に連携し、安全で安心して生活できる学校づくりを推進していく必要がある。 ○ 問題行動には携帯電話やスマートフォンを使用したメールのやりとりが関係している場合が多い。そこで、携帯電話安全教室のより一層の充実を図り、トラブル防止の徹底をしたい。また、定期的にアンケート等を実施して生徒の生活状況を把握し、いじめ等の問題行動を未然に防ぎたい。
		活動計画 ① 社会や学校のルールやマナーを守り、お互いが気持ちよく安全な生活が送れるようにする。また、自転車通学生のヘルメット着用や並進等を指導し、登下校時の事故やけがの防止に努める。 ② 生徒相互、教職員、来客者に対するあいさつを徹底させる。特に全校集会等で生徒会本部役員とタイアップしてあいさつ運動を推進する。 ③ 外部講師による講話や講習会を毎学期に実施し、トラブル防止を推進する。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室 ・携帯電話安全教室 ④ 生徒指導委員会の機能を活性化し、携帯電話の不正使用やいじめ予防教育の推進に努める。	活動計画の実施状況 ① 入学者説明会等で、生徒や保護者へ校則の周知徹底を図った。 新入生へのオリエンテーションの実施 毎月の指導週間の実施 JR乗車指導の実施・JR山川駅駐輪場使用状況調査 全校集会後の中学生集会の実施 常時指導の徹底 ② 全校集会後の中学校集会の実施 交通講話の年2回実施 自転車点検の実施 ③ 生徒会によるあいさつ運動の実施 毎月の指導週間の実施 外部講師による安全教室の実施 常時指導の徹底 ④ 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室の実施 携帯電話安全教室の実施 中学生サミット参加 薬物乱用防止街頭ヤングキャンペーン参加 非行防止作文、ポスター及び飲酒防止ポスター作成			

平成26年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(5)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
				総合評価			
<p>(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進</p>	<p>① 人権教育指導計画の改善と「あわ人権」学習ハンドブックの活用を図る。</p> <p>② 人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。</p>	<p>① 「本校の人権学習の内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合、90%以上をめざす。</p> <p>② 「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合、90%以上をめざす。</p> <p>③ 「人権を大切にしている教育活動が行われている。」と思う保護者の割合、90%以上をめざす。</p>	<p>① アンケート結果 生徒84%、保護者76%が、「生徒は人権学習に積極的に取り組んでいる。」と回答。</p> <p>② アンケート結果 生徒79%、保護者82%が、「生徒は人権について学習したことを日常生活に活かそうとしている。」と回答。</p> <p>③ アンケート結果 生徒86%、保護者88%が、「本校では人権を尊重する考え方や態度を育てる教育が行われている。」と回答。</p>	<p>(評定) B</p>	<p>○ 「日常生活に生かしている」という数値が少いという印象も受けるが、高い目標達成に必要と考える。</p>	<p>○ 生徒一人一人と向き合いながら、人権教育の土壌づくり・仲間づくりをこれからも継続的に進めていきたい。すべての教育活動の中で、自分も大切にしたい。大切にする集団をつくっていききたい。</p>	
							<p>活動計画</p> <p>① 生徒の実態に即した学習主題を設定し、個別的な視点と普遍的な視点の双方を加味した学習を組み立てていく。また、「あわ」人権学習ハンドブックの活用を努める。</p> <p>② 生徒一人一人を生かし、大切に学ぶ学級づくりを推進する。その中で、いじめは、人権にかかわる重大な問題であり、絶対に許されない行為であることを徹底して指導する。また、よりよい人間関係を築き、コミュニケーション能力を育成するために、体験的参加型学習を多く取り入れる。</p> <p>③ 人権委員会の活性化を図るとともに、全校で意見交換を行う機会を設けることで、生徒が主体的に学んでいくこととする意欲や態度を育成する。</p> <p>④ P T A 人権教育推進委員会の活動の活性化を図る。保護者の意見を取り入れながら人権教育を充実させていく。</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
<p>(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実</p>	<p>① 学校行事，生徒会活動を通じて生徒の自主性の育成に努める。 ② ホームルーム活動(学級活動)や部活動のより一層の活性化を図る。</p>	<p>① 学校行事(体育的活動)に積極的に参加をさせる。 ② 学級活動(体験活動)の充実を図る。積極的に部活動への参加を促す。</p>	<p>① アンケート結果 生徒 96 %保護者 96 %が学校行事が適切に行われていると回答。 ② アンケート結果 生徒 97 %保護者 95 %が学級活動は，豊かな心を育むために役立っていると回答。</p>	<p>総合評価 (評定) A ----- (所見) 学級や学校の一員として望ましい人間関係を形成し，よりよい生活づくりを参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てることができた。</p>	<p>○ 県立川島中でこの分野を充実させているところが高く評価されます。学級活動・専門委員会・生徒会は公立中では活動が低調になっているように思っていました。生徒会は一部の委員だけの活動になっています。全校の生徒会集。会などが時間的にも取れなくなっています。 ○ 修学旅行の「民泊」は，地域に根ざした体験となり収穫の多いものと思う。また，忌部の里巡りの実践など知識と集団生活など，総合評価 A はすばらしい。</p>	<p>○ 学校生活や生徒会活動，学級活動の目的を再度見直し，より充実した学校生活を生徒が送れるよう不断の改善を図っていききたい。</p>	
							活動計画
		<p>① 目的や運営のあり方を見直し，学校行事をより充実したものにする。 ② 各生徒会専門委員会の意義や役割を周知し，生徒が自主的に活動出来るように生徒会活動の活性化が図れるようにする。 ③ 学校生活や学級における身近な課題を話し合い，総合的見地から自主的・実践的に学級の合意が図れるよう指導する。</p>	<p>① 学校行事 入学式 4月 忌部の郷めぐり 4月 体育祭，文化祭 9月 遠足，修学旅行 12月 球技大会 12月 ② 専門委員会 専門委員会を定期的実施し，呼びかけや活動について，中学生集会で全校に周知徹底した。 ③ 特別活動の各領域を通じて，望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてよりよい学習生活づくりに参画しようとする態度を育てることができた。また，生徒が学校や学級への所属感や連帯感を深め，協力して諸問題を解決し，よりよい学校，学校生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てることができた。</p>				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標			評価指標による達成度		
<p>(7) 環境教育及び国際理解教育の推進</p>	<p>①新学校版環境ISOに取り組むなど環境保全活動に努める。</p> <p>②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。</p>	<p>①新学校版環境ISO認証校として、清掃や美化活動に、積極的に参加するとともに、「ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と思う生徒の割合、85%以上をめざす。また、電気、水道の使用量については、前年度より4%減をめざす。</p> <p>②本年度実施の海外語学研修に向け、適切な準備を行う。大学の教員などを講師として招き、国際理解についての講演会を実施する。</p>	<p>①アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の72%が、新学校版環境ISO認証校として、「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と回答しており、昨年度に比べて減少した結果となった。電気の使用量は前年度より4%減で目標を達成できた。 <p>②国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語学研修の参加希望者とその保護者を対象に、説明会を実施し、研修に臨む意識を高めることができた。 ・語学研修の現地校の生徒と教員が来校。また、大学の教員を講師として招き、国際理解についての講演会を実施した。88%の生徒が国際的視野を広げるの役立ったと回答している。 	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>昨年度に比べ、「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と答えた生徒の割合が減ったが、個々の生徒のコメントを読むと、たくさんの生徒が清掃や美化活動に関心をもっていることがうかがえる。実際に電気の使用量も減っていることから、ある程度意識し行動に移せていたと思われる。</p>	<p>○環境ISOに関する姿勢、生徒72パーセントという数値は、もう少し高めるような対応が大切である。</p> <p>○ホームステイをもっと長くしてはどうか。</p> <p>○美化活動やゴミの意識高揚に今後とも期待する。電気使用量が前年度より4パーセント減の目標達成はすばらしい。海外語学研修など国際交流にも力を。</p>	<p>○「新学校版環境ISO」についての生徒の理解を深めるとともに、意識にとどまらず、実行できるように生徒に働き続ける工夫が必要である。</p> <p>○国際交流の充実を図ることは、日本に生きる自分の立ち位置を知ることでもあるので、「交流会」ではなく「知る」活動をどのように取り入れていくのが課題である。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>①新学校版環境ISO認証校として、清掃活動やリサイクル活動の充実を図り、生徒会活動の専門委員会活動の中で自主的な活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの環境委員が「節電・節水ポスター」を作り、意識の高揚を図る。 ・クラスに古紙BOXを配置する。 ・エコキャップのポイントカードを作る。 <p>②国際交流</p> <p>語学研修の現地校の教員などを講師として招き、国際理解についての講演会を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①環境委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節電・節水状況を調査した。 ・文化祭の際、ゴミが分別できるようにゴミ箱を製作し、設置した。 ・ポスターを作成し節水・節電を呼びかけた。 <p>全生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裏面利用できる紙は分別し、再利用を行っている。 ・昨年度より引き続きポイントカードを作成し、エコキャップの回収に努めている。 <p>②国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月に実施した第5回海外語学研修説明会では、約40名の中高生とその保護者が参加し、質疑応答などを行い、有意義な説明会となった。 ・全学年または各学年単位で国際理解についての授業や講演会を開催し、世界の日本の立場だけでなく、日本にいる自分はどうのように行動すべきなのかという視点から物事を考える機会とした。 	<p>国際理解教育において、「世界の中の日本」「日本との文化や考え方の相違」を知ること、自分の行動について考えを深める機会とした。</p>			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進</p>	<p>①地域貢献活動等などの活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り、家庭や地域の連携を深めるとともに、外部評価結果を活かす取り組みの推進。 ②地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①参観日や学校行事等、保護者が学校に来る機会をできるだけ多く設けるとともに、「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会が多くある」と思う生徒及び保護者の割合、80%以上をめざす。 ②ホームページやメール配信により学校の様子を伝える。「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている」と思う保護者の割合、80%以上をめざす。 ③防災避難訓練に真剣に取り組んでいる生徒の割合、80%以上をめざす。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①アンケート結果 生徒85%、保護者95%が、「参観日や学校公開の日など、保護者が学校に来る機会が多くある。」と回答している。 ②アンケート結果 保護者86%が、「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている。」と回答している。 ③生徒の取組状況はおおむね良好であり、積極的に活動することができた。</p>	<p>○保護者に学校へ来てもらうこと。また、地域貢献活動にも力を入れ、家庭と学校の連携を目指してほしい。防災教育の充実も望む。</p> <p>○本校の大きな特色である授業参観等の高い参加率を維持するために、公開授業の工夫などをさらに進めなければならない。そのためには、開校から9年がたち劣化が進んでいる教室の機器等の授業環境の改善・更新を急がなくてはならない。かつては吉野川市内では最も先進的であった設備が最も立ち後れてしまった現状にあせりを感じる。その中で今年度末に、教室のパソコンが新しくなったのは朗報である。</p> <p>○外部講師を招いての様々な授業は有意義であるが、その分通常の授業時間の確保が問題となってくる。行事の精選も考えなくてはならない。</p> <p>○防災学習をカリキュラムの中に適切に位置づけ、より効果的な学習が行われるよう工夫していきたい。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>①保護者や地域に開かれた学校づくりとして、授業参観、学年部会、中高一貫教育懇談会等を開催する。</p> <p>②専門的な知識や技能を有する地域の方を招聘しての学びの機会をさらに増やすことにより、多様な学習活動の充実と地域の方の本校教育への理解を深める。</p> <p>③本校の特色を地域に理解してもらうため、パンフレットなどを作成し、近隣小学校に配布するとともに、小学校保護者を対象とした説明会を実施する。また、ホームページも充実する。</p> <p>④小学6年生とその保護者を対象とした入学者募集説明会を実施する。</p> <p>⑤防災避難訓練にあたっての事前、事後指導の徹底をはかり、総合的な学習の時間で防災を扱う。</p> <p>⑥防災クラブの活動の活性化を図るための取り組みを行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①授業参観3回、参加率73%程度 中高一貫教育見学会(7月) 参加者175名 とくしま教育の日(11月)学年部会(5月) 高校説明会 3学年対象(7月、10月) 高校説明会 2学年対象(11月) 校内合唱コンクール(3月)</p> <p>④外部講師を招いての主な授業 薬物乱用防止教室 全学年4月(2名) 携帯電話安全教室 全学年4月(1名) 先輩から学ぶ 2・3年7月(10名) 防災学習 全学年7月(1名) 人間関係づくりワークショップ 1年7月(1名) 和三盆干菓子づくり体験 1年7月(3名) 国際理解講座 2年7月(2名) 勾玉づくり 1年9月(1名) 人権講演会 3年9月(1名) 携帯電話安全教室 1年10月(1名) キャリア教育講演会 2年10月(2名) 広島原爆被爆体験記朗読会 3年11月(2名) もの作り体験 2年12月(12名) 思春期学習講座 3年2月(1名)</p> <p>③パンフレットを作成し、近隣の小学校に配布するとともに、訪問説明会を22校で実施した。また、ホームページの更新や、メール配信を随時行うことにより、学校の様子を保護者に伝えた。</p> <p>④10月に実施、参加者108名。その時に企画広報委員会で作成した広報誌「絆」も配布した。</p> <p>⑤中高合同の避難訓練(2回)やJアラート訓練など、生徒は積極的に参加し、学年単位で防災に関する授業を行った。防災講演会や防災クラブの活動、防災だよりの発行を通して、全校生徒、保護者の防災・減災への意識の向上を図った。</p>		